

会 議 録				
平成22年度第7回 社会教育委員の会議	日 時	平成23年1月19日(水) 午前9時30分～11時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	伊藤、浦野、倉持、小林、佐野、樹、中村、本多、本川、各委員 (欠席委員)田尻委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、宮腰スポーツ振興担当課長、田 中図書館長、大関公民館長		
	事務局	林生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
次 第				
1. 報告事項				
(1) 平成22年度成人式の日記念行事について				
(2) 第7回野川駅伝大会について				
(3) 図書館の蔵書点検による特別休館について				
(4) その他				
2. 協議事項				
(1) 小金井市教育委員会の基本方針及び教育施策について				
(2) その他				
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
<p>佐野委員の委嘱について (尾崎生涯学習課長)</p> <p>この度、体育協会から推薦された吉池委員が、理事の改選があったとのことで辞任し、佐野委員が推薦された。任期は残任期間である平成22年11月18日から平成23年9月8日までである。本日が最初の会議であるので委嘱状を交付する。</p> <p>(本川議長)</p> <p>では、部長から委嘱状をお願いします。</p> <p>(渡辺生涯学習部長)</p> <p>任期は開始しているが直近の会議での交付とした。本来であれば教育長から交付するところであるが、本日出張のため、生涯学習部長から交付する。</p> <p>佐野郁蔵様。</p> <p>小金井市社会教育委員を委嘱する。</p>				

任期、平成22年11月18日から平成23年9月8日まで。

平成22年11月17日小金井市教育委員会。

よろしく願います。

(尾崎生涯学習課長)

佐野委員、一言お願いしたい。

(佐野委員)

吉池前委員の後任として体育協会から推薦された佐野郁蔵と申す。よろしく願います。

1. 報告事項

(1) 平成22年度成人の日記念行事について

(尾崎生涯学習課長)

成人の日記念行事の概要について説明する。開催日時は平成23年1月10日成人の日に行われた。会場は中央大学附属高校の講堂をお借りした。新成人による実行委員会形式によって実施された。当日は気温も低く、風もあって大変寒い状況だったので、受付時間を10分ほど早めて10時20分から受付を開始したところである。式典は11時から開会し貫井囃子保存会の祭り囃子から始まり、市長の挨拶、来賓の祝辞、新成人の言葉があり、JリーグFC東京選手3人からも祝辞を頂いた。今回、初めての試みとして実行委員長による光のイリュージョンを披露した。最後に抽選会を行い正午過ぎに終了した。本年度の新成人の対象者は男性が646人、女性が583人、合計で1,229人である。そのうち市内在住が1,194人である。外国籍の方が35人含まれている。参加者は男性が340人、そのうち市外からの参加者が21名あった。女性は311人で、市外の参加は23名である。参加人数の合計は651人、市内在住参加者は607名であった。

(2) 第7回野川駅伝大会について

(宮腰スポーツ担当課長)

第7回野川駅伝大会について報告する。1月16日日曜日、都立武蔵野公園野川第2調整池をスタート及びゴール地点として、公園内をコースにした駅伝大会を実施した。これは市の委託事業であり、委託先は総合型地域スポーツクラブのNPO法人黄金井倶楽部である。参加人数は92チーム、772人だった。昨年度は68チーム、599人だったので、参加チーム数、参加人数とも昨年に比較して増えている。増加の原因としては、近年のマラソンブームが背景にあり、初心者でも気軽に参加できる大会であることから、参加者が増えたものと考えられる。当日は最高気温が5.9度、風もあるという寒い1日だったが、参加者、応援者、役員、スタッフともに楽しいひとときを過ごせた。大きな事故なく無事終了することができた。

(3) 図書館の蔵書点検による特別休館について

(田中図書館長)

蔵書点検の実施に伴う特別休館について報告する。図書館では、蔵書の適正な把握のため隔年で蔵書点検を実施している。平成21年度にも実施したため通常であれば平成23年度実施となるが、平成22年5月の電算システムを入れかえに伴い書架にある貸し出し中でない本にも予約ができるようになったことから、いわゆる不明の図書を少なくするようにするため、今年度も蔵書点検を行う。期間は本館、西之台会館図書室、移動図書館が1月31日月曜日から2月8日火曜日まで、東分室、緑分室が2月14日から2月17日まで実施する。蔵書点検の結果については別途報告する。

(4) その他

(本川議長)

関東甲信越静社会教育研究大会について各分科会から報告をお願いする。

(浦野委員)

1月26日金曜日、セッション杉並において、10時から11時15分まで、平成22年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会が行われた。第1部は東京都市町村社会教育委員連絡協議会の浅井会長から挨拶があり、青少年の育成や家庭・学校・地域の連携が大切ということと、地域教育の活性化のために社会教育が果たすべき役割について、今、考える必要があるのではないかという内容であった。来賓の祝辞は武蔵村山市持田教育長から放課後子ども教室や学校支援地域本部等の家庭・学校・地域の連携が重要になっているという話と、東京都主任社会教育主事の江上氏から、都市型社会教育、すなわち地域教育の拠点を、学校に担ってもらいたいと東京都は考えているという趣旨の話だった。社団法人全国社会教育委員連合の常務理事、坂本氏からは、戦後の社会教育は農村型から都市型社会教育に移りつつあるということ、転換期であり円熟期に入っているという内容の話があった。その後、表彰式、各ブロックの実施報告があった。

(樹委員)

記念講演の報告をする。ピアサポートネットしづやの相良良子先生から地域との関わり、中高校生の居場所づくりをしてきたという実績に基づいてのさまざまなお話や提案があった。一つの活動を軌道に乗せ、地域に根づいて新たにサポートしていく人たちを生むということをシステムとして成立させる為には、時間と根気が必要であり、情熱や継続力が必要だということを感じた。地域・学校・家庭の状況が変化していく中で、中高校生の居場所がなくなっていく、そういう中から凶悪な事件が多発していった時代から、それを何とかしなければという思いで立ち上げてこられたという体験を聞かせていただいた。サポートを受けた若者たちが、今、逆にサポートする側に回

っていくという連鎖をつくり上げてきたという実績を聞きながら、そのまま小金井に役に立っていくかどうかというのはわからないけれども、一つの方法として考えていくことも大切かと思った。

(中村委員)

第2分科会はテーマが「地域が支える子ども・学校～学校支援地域本部の可能性～」であった。最初は学校の生徒やOBなどを含めた迫力のあるジュニアバンド演奏から始まり、その後、杉並第一小学校を支援している学校支援地域本部、これは放課後子どもクラブのモデルにもなった組織であり、杉一プランという学校を支援するコミュニティがあって、「力のある学校づくり」の支援、あるいは「わが街、阿佐ヶ谷ふるさと杉一」の意識、学校・地域・保護者が一体となった学校支援、それから杉一プラン独自の発想と協力体制による教育活動のさらなる充実ということで、さまざまな取り組みがなされているということで、要は杉並第一小学校を支援するために設置された地域の人たちの学校応援団だというのがその趣旨である。具体的な報告があり、地域の人たちが朝先生ということで、授業が始まるまでに地域の人たちがそれぞれ講師役を担って、朝8時25分から35分までの10分間に杉一学習という独自の時間をつくって、計算問題とか百人一首とか勉強や読書などに取り組む時間である。これは学校の担任の先生がノータッチであり、経験豊かな地域の人たちが朝先生ということで講師が来ている。この時間帯に地域の人材である朝先生が子供たちを温かく見守っている。今度は放課後については、毎日午後5時まで180名の子供たちの居場所作り事業がある。学童保育と若干重なるところがあるけれども、日本の昔遊びとか路地裏遊び等を実施しているということであるスタッフは全員、子育て経験の豊かな地域の人材がそれを担っている。また、検定シリーズというものもあり、児童と大人が一緒に受験するというので、日本語検定、漢字検定、剣玉検定等を受けている。他にも親子教室という親子一緒に遊ぶかけがえのない時間を設ける。そういった学校を支援する取り組みの報告があった。講師が非常にパワフルな女性で、リーダーシップを持って、自分のことのように熱心に支援されている様子に非常に感動した分科会であった

(尾崎生涯学習課長)

第3分科会の報告をする。お手元の資料をご覧ください。テーマが『地域課題に向き合う「学び」～子ども・若者・高齢者の支援から見えてくる新しい社会教育のかたち～』ということで、大変素晴らしい子育て支援活動を実践している団体の代表の方の話があり、学校支援地域本部の全国的なモデル校になっているようである。学校と地域が融合されていて、学校に地域の方々の出入りがあり家族のような交流で、学校を地域がバックアップしているという報告があった。

若者支援については、NPO法人の「育て上げ」ネットの理事長の工藤氏からの話があり、なかなか大人になり切れない若者たちの就労支援や、問題を抱えている保護者の支援等を行なっている。当初なかなか地域の方に理解が得られなかったが、継続

するにつれ地域からも理解され、現在は軌道に乗っているというような報告があった。

高齢者の支援についてもNPO法人を設立し、高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会の代表紀平容子氏の話があった。最初は試行錯誤であったが、とにかくレストラン事業をやってみようと少人数でスタートしたが、事業をやっていく中でボランティアを募集して形になったということであった。運営資金についても、出資者を募集して720万で始めたということであった。事業が大きくなり地域からも理解されるようになったということである。

(本川議長)

第4分科会に出席した本川からご報告する。地域の教育力向上を目指した社会教育施設の役割ということで、町田市が幹事市であった。「ワールドカフェ方式」という、あまり聞きなれない運営方法だったが、グループに分かれコーディネーターを1人固定し時間を区切って話をして、時間が経過すると次の場所に移動するという方式である。地域社会の先細り傾向を立て直し、新しい公共を打ち立て、誰もが生きがいの持てる地域社会をつくるのが社会教育委員に課せられた大きな責務であると思っている。地域の社会教育の拠点となる社会教育施設はやはり必要であるという観点のところが非常に多かったと思う。現在取り組んでいる施設と施設のネットワークづくりや、団体と団体のネットワークづくり、市民と市民のネットワークづくり、そして、社会教育の大きなネットの結び目としての社会教育施設というものの必要性を改めて感じたところである。「施設としての公民館ではなく、人々の集まったところが公民館である」というような話は心に残った。公民館では既得権の弊害や、公民館は地域から飽きられたというような表現をしている方もいた。時代に合った施設の活用の仕方というのも大変重要であると感じた。最後に、ワールドカフェ方式のように飲食が伴うと、気楽にいろいろなことが言える良い雰囲気を作れるように感じた。

(伊藤副議長)

第5分科会について報告する。「やりとりの復活」が紡ぎだす新しい公共空間と書いてあるが、杉並の社会教育施設はその他の行政施設と一体的な複合施設になっており、小金井も新しい市庁舎が建ち上がれば、一つの建物の中に公民館も図書館も交流施設も全ての行政機能が完結した施設になると、非常に利用しやすいものになると思った。話の趣旨としては様々な団体が活動しているが、その場でただ活動して終わりということではなくて、何とか紙ベースで記録されて残そうという試みである。事業を実施した主体は色々な感想を持つが、それ以外の方は全然わからないわけである。どんな団体がどんなことをやったかというのが全然わからない。そういうことでは地域コミュニケーションとしての発展もないし、きっかけができない。それで、何とか活動した内容を記録として残そうというのがその趣旨である。以上である。

(本川議長)

分科会以外に報告はあるか。

(小林委員)

1 1月29日午前10時から第4回放課後子どもプラン運営委員会があったので報告する。各小学校区の進捗状況を3人のコーディネーターさんから報告があり、平成23年度の放課後子ども教室の国の概算要求についても説明があった。平成21年度の放課後子ども教室アンケートに対する回答や、放課後子どもプラン運営委員会や放課後子ども教室実行委員会への要望などがあった。1つ紹介すると運営委員会の様子が実施団体には見えない、また実施団体同士の情報交換も不足しているので、今年度中に実施団体の情報交換会を開催する予定であるとのことであった。また、運営委員会の委員はもっと現場を見て知って欲しいということに関しては、運営委員が東小学校へ視察に行った。

(中村委員)

1 2月8日水曜日に、第7回(仮称)貫井北町地域センター建設市民検討委員会があった。平面での基本設計、公民館の部屋の構成と大きさ等について検討したが、特に時間をかけたのは各部屋の名称についてであった。また隣接地にある北一会館との境界についてのお話があった。各部屋の構成について紙ベースでなくて、前川建築設計所のほうから、実際のスケール50分の1の小さな模型を用いて説明があった。

次回は1月23日日曜日だが、これまでの検討内容の最終確認がここになり、その後、3月にも開催される予定である。以上である。

(本川議長)

そのほかに何かあるか。

(浦野委員)

質問だが。課長からの報告で、成人式には市外の参加者について報告があったが、市内在住でなくても参加できるのか。

(尾崎生涯学習課長)

記念品等は差し上げられないが、新成人であれば参加することができる。

(本川議長)

個人的な印象だが例年に比較して参加者が若干羽目を外していたように思う。入口で対応する等できないのだろうか。

(尾崎生涯学習課長)

飲酒をして気持ちが大きくなって大声で話したりする新成人がいたことは当日出勤した職員から報告は受けている。しかし、少し騒いだけで無理矢理退場させる等の強硬な対応は逆に騒動の原因にもなりかねないため、静かにするように促すような指導をしているところである。今後の対応については、事務局でも検討したい。

2. 協議事項

(1) 小金井市教育委員会の基本方針及び教育施策について

(尾崎生涯学習課長)

小金井市教育委員会の基本方針及び教育施策について、社会教育全般にわたる基本方針、また教育施策ということになるので、社会教育委員の会議でも御意見を頂きたいと考えているところである。

改正案の中では、読み上げさせていただくと、「市民一人一人が生涯にわたって学び、その成果を社会に還元できるようにするとともに」、この次のところに「子供たち」の前に「次代を担う」という言葉を入れたらどうかということの提案である。「健やかな成長を社会全体で支えることが求められる。そのために、家庭・学校・地域の教育力を高め、その連携が進むよう支援するとともに」、今までは「人々が」という表現だったが、文言の統一を図るため「市民が生涯を通じて、自ら学び、文化・スポーツに親しみ、社会参加できる機会の充実を図る」という文章に改めたいということで、今回ご提案をさせていただいたところである。

(本川議長)

何かご意見はあるか。

(倉持委員)

質問である。基本方針4の「生涯学習」と「文化・スポーツ」がかぎ括弧に入っているのは、何か意味があって別々にかぎ括弧されているのか。学生への卒論等の指導でも、意味があるかぎ括弧以外はとるように助言しているところであるので、細かいことですが一定整理していただければと思う。

(尾崎生涯学習課長)

承知した、他のページとの統一性を図りながら、記号の適切な使用に配慮する。

(本川議長)

このようなことに関して社会教育委員の会議に投げかけて頂いたこと自体が大きな前進である。意見もないようなので基本方針については改正案どおりでの承認ということでもよろしいだろうか。

(尾崎生涯学習課長)

資料の(1)から(4)までは生涯学習課の内容なので検討いただければと思っている、(5)公民館の充実については、公民館運営審議会では協議をしているということなので御理解頂きたい。(6)図書館の充実については、図書館協議会では協議をしていないということなので検討頂いても問題ないと考えている。次回の通知に併せて事務局案を送付するので、その上で検討していただき、第8回の会議で御意見を伺えればと思っている。

(2) その他

(本川議長)

では、その他に移る。第5ブロック研修会の日程調整ということである。

(尾崎生涯学習課長)

平成23年度都市社連協第5ブロック研修会の日程について、幹事市の三鷹市より

日程検討を依頼された。

三鷹市では平成23年10月22日、10月16日、10月2日、10月1日、10月8日の順で希望しているが、各市開催不可能な日程、避けたい日程を知らせるようにとのことであるので、皆さんの御都合を伺いたい。

(本多委員)

16日は市民まつりである。

(各委員日程調整)

(尾崎生涯学習課長)

10月22日(土)はできれば避けたい、10月16日(日)は不可ということで回答してよろしいか。

(本川議長)

その内容でお願いします。決定次第早急にご連絡いただきたい。委員各位は予定を入れるのを避けていただくようお願いしたい。

では続いて、小委員会のご報告を兼ねて協議事項があるので、倉持委員お願いします。

(倉持委員)

前回の小委員会を報告する。私は三者合同会議に参加できなかったもので、それに基づいて話し合いが行われているので、不十分な点があるかもしれないので、その点を皆さんに少し補っていただきながらと思う。今回は地域ネットワークづくりに向けてということで、この社会教育委員の会議でも、三者合同会議においても、そのような中身での話がされたと伺っている。

地域でのネットワークをつくっていくということについては重要であるということで、共通の認識が得られたと聞いている。物理的な場所ということであったり、情報のネットワークということであったり、ハードの面とソフトの面と両方含んでいるということもあると伺っている。市のほうでもポータルサイトについて取り組みが始まっているというようなことも、情報という点については進んでいると聞いている。

地域のネットワークづくりで、拠点をつくっていくというのが一つの大きな目標になっていくのではないかとというのが小委員会での議論で出てきた部分である。大きな目標というか、最終的な目標としては、やはり情報交換ができたり、次の方向が得られたり、相談ができたり、社会教育に関する幅広い機能を備えた場所があったらいいということを提言していくというのが最終的な目標だけれども、それをいきなり提案しても、なかなか現実的には難しいので、そこに向けた状況づくりをしていこうではないかということをし少し現実的に話し合った。

取り組んでいく核になる組織として、三者合同会議があるのではないかとという案が出た。社会教育委員と公運審と図書館協議会の三者の結びつきをより強めることによって、その中でこの拠点づくりに向けた役割を果たしていくのではないだろうか。

実は社会教育委員や公運審、図書館協議会はちょっと違うかもしれないけれども、公運審に比べて、より地域に密着した組織として、企画実行委員がいるので、そういうところとも少し手を取り合っていく必要があるのではないかというような意見も出た。今後、公民館の企画実行委員の5館それぞれの委員さんと交流する、あるいはそこから少し私たちが学ぶことによって、ネットワークの拠点づくりということを進めていけるのではないかというアイデアが出ている。また、議論だけをしていても、なかなか形にはなっていないので、きっかけとしてイベントを実施するのもよいのではないだろうかという意見も出た。公民館のお祭りとかだと公民館で活動している団体しか参加できない、発表できないというのがあるけれども、市内には幅広く生涯学習ということであると、NPOやボランティア活動や趣味的な学習活動をなさっている団体はたくさんいるし、そういう幅広い生涯学習活動をしている団体が自分たちの活動を紹介したり、報告したり、あるいは交流したり、そういうことができるようなお祭り、祭典のようなことを近い将来やっていく中で、こういうネットワークが大事なんだから拠点化が必要だよねということを三者合同あるいは四者合同で提言していこうということを進めていく。それを次期の社会教育委員にもつなげていきたいということを考えてきた。このことについてどう思うかをぜひ皆さんにご意見を伺いたいと思うけれども、現実的に言えば、次の三者懇談会が5月ごろあるということであるので、ここで少し議論ができるような働きかけ、当番が次は公運審だということであるので、働きかけができないかというような話も出ている。まとまりがないが、以上である。

(本川議長)

何か補足することはあるか。

(本多委員)

つけ加えると、建物としての拠点についても必要性が論議された。

(本川議長)

小委員会で検討していることは、社会教育委員の会議の同様の課題なので、何かご意見があればおっしゃっていただきたいと思う。

今度の三者懇であるが、事前に代表者の打ち合わせがあるので、企画実行委員会についても働きかけることができればと思う。公民館長いかがか。

(大関公民館長)

きっかけづくりとしてお祭りとか祭典とかを行うということであれば、企画実行委員が入って行うのもいいのかなと思う。ただ、あくまでも今やっている三者懇とはまた別なのかなと思う。

(本川議長)

自主的な活動であれば問題ないであろうか。

(尾崎生涯学習課長)

基本的には、正式な会議ということではないので、個人が任意での出席をすること

に関しては問題ない。

(本川議長)

ありがとう。質問であるが、各館企画実行委員がいるが、公運審との情報交換・連絡会とかいうのは、現在はどのようになっているのか。

(大関公民館長)

公運審・企画実行委員・職員で年1度研修会をしている。また公運審と企画実行委員での懇談会は随時実施しているが、定期的なものではない。

(倉持委員)

最近の研修会のテーマや出席率等詳細が分かる資料を頂きたい。

また図書館では、他の審議会等との連絡会等はあるだろうか。

(田中図書館長)

図書館協議会はあくまでも図書館に特化しているが、図書館関係の集まりはある。

(本川議長)

こんな話が出てくるのも、それぞれのところはそれぞれでほんとうに充実しているのだが、横の情報交換というのほどこもなかなか難しい部分があり、もったいない気がする。何とかスムーズにいくためにはどうしたらいいだろうかと考えている。

(佐野委員)

質問だが、地域のネットワークづくりに向けてという、これはどこから出たのか。

(伊藤副議長)

平成19年当時の社会教育委員が提言した地域教育会議が基になっている。

(本川議長)

小委員会でも話しているが。三者懇談会を少し膨らませた形で実現できればと考えている。ここにいる委員だけでも様々な団体に所属しているし、そこから膨らませていくことは不可能ではないように思う。

(佐野委員)

今、社会教育委員の会議でいろいろ検討されている内容が、公民館と図書館関係のところに情報が伝わっているのか若干疑問である。そのような交流がないと会議だけで終わってしまうような気もしたもので、流れがわからない中でお話しするのは失礼であるが。

(本川議長)

先ほど申し上げた三者懇談会、三者合同会議があり、その中で統一テーマとして地域ネットワークづくりに向けてということで話し合いをもっているという現実はある。

(倉持委員)

佐野委員の発言は非常に重要である。さっき、まさに公民館の企画実行委員さんと何か一緒にできないかと考えたときに、なかなかやり方は難しいねという話が小委員会で出ていて、しかし企画委員さんが持っているネットワークとか実践力というのは物すごいものだったり、あるいは小金井らしさというようなことになったら、すごく

強みになるところがあったりするところをうまく巻き込んでいけないかという理由と、お互い問題意識だったりビジョンを共有していくというのを理解していくというプロセスはすごく大事になっているのではないかなと思っている。

ただ、そうかといって、ずっと会議をしても、お互い好き勝手なことを言うという段階で終わってしまうというのもあって、きっかけとしてイベントを実施してもいいのではないだろうかという意見が出た。

提言だけをしても全く具体化しない場合もあるので、一方で具体的な動きをするために、委員個人で留めるのではなく、所属している団体との結びつきや力を出し合っ、まずは近い将来そんなイベントをやってみる中で何か見えてくるのではないかと小委員会で検討した。

(本川議長)

倉持委員、ありがとう。提言が提言で終わってしまうのはもったいない話である。社会教育委員の会議自体は実践を伴う団体ではないが、自主的な活動をしていく必要もあるのではないだろうかということが小委員会で話し合われた。

(本多委員)

小金井市は公民館活動から地域の繋がりが生まれている地域だということが小委員会で出たように思う。

(小林委員)

さまざまな話を聞かせていただいて、三者会議のときの私がいたグループのことを思い出したけれども、やはり情報を得る場所というのがどこなんだろうという話が出たときに、私自身も、またほかの方も、やはり地域に一番近いところで公民館という拠点、まず社会教育施設の一つに公民館があそこにあるというのは認識している。市役所に来るときはほんとうに自分の用事があるときのみ、でも、公民館、また地域の人は、梶野町五丁目であると婦人会館とかあるけれども、あそこに行けば何らかのチラシがあったり、案内があったりして何か知ることができる、また、自分が何かできるのではないかという話が、私がいたテーブルではあった。

やはり公民館という場があるので、これが長年の伝統と歴史のある活動をされてきてはいるものの、私自身は公民館の企画実行委員の経験があるけれども、もう10年も前になるけれども、そのときのことでもまた思い起こして、やはり講座の企画を立てていくということがその当時は主目的だった。公運審とのこちらの思いというか、出向いていただいて現場の声を聞いていただく機会もあったが、発展していくという、出した言葉をその後どういうふうにしてきたのかというのは、その場その場で終わっていたのかなと思う。

今、三者懇談会、三者会議という年に1回今年度設けたことはすごく画期的なことだと思って、図書館の方、公運審の方、皆さん、すごく賢明なご意見をお持ちで、そこにはやはり拠点があれば早いよねという声がどうしてもそこに行き着いてしまう。

社会教育委員は、佐野委員もおっしゃっていたが、本川議長もおっしゃった会議の

場から発信していった、その後、現場とのかかわり、各団体さんから出られている方、私のように公募している者、また違いがあるとは思いますが、現場との交流という意味では、何か皆さんと交わえる、さっき倉持委員がフォーラム、お祭り、祭典とおっしゃっていたけれども、大きくなくても、例えばこの会議室を使って、三者懇からもう少し発展したものを来年度早々に、交流の場というか、意見交換の場なども設けたところからテンポ、スピードがこれまでよりは速まるのではないかなと思う。幸い、私たちも来年度、23年度4月からまた、途中の9月までは任期中であるので、その間にほんとうにこれまでの方々がつくってこられたものを、やはりとめたくはないし、また発展させた形で1つ現場に残したいという気持ちはすごく強くある。

でも、何か始めてみたいというか、そのきっかけが、科学の祭典で、今言われている社会教育委員の有志の方々が入ってきた。そこへ向けて、こういうものを行っているんだということをお見せしてきたのもあるのかなと思うが、もう少しコンパクトでもいいので、こういう意見交換というのはいかがなものか。できなくはないのではないかな。やりたいというか、ぜひやってみないかということである。

(本川議長)

提言は大切だが、提言が提言で終わっては意味がない。ぜひ実現可能な提言をしていきたいと思う。

(渡辺生涯学習部長)

提言の話が出たが、前回の会議で平成10年の「小金井市の生涯学習の推進について」に関して当時と現在の比較等について勉強したいということであったので、自主的な集まりになってしまうが、各委員の日程が調整できれば背景等簡単に説明したいと思う。

(本川議長)

では、会議終了後日程を調整する。会議はここで終了したいと思う。

以上

-